

# 津市立南が丘小学校だより

## かがやく未来

2024. 4. 23 N06

### 避難訓練に思う

17日(水)2限目に地震及び地震による火災発生という設定で避難訓練を行いました。本年元旦には能登半島を中心に大きな地震が発生しましたが、2011年の東日本大震災以降震度5強以上の大きな地震は熊本地震や新潟中越地震をはじめ40回以上にのぼっているという報告もあり驚かされます。訓練中、



子どもたちは静かに避難することは当然のこと、煙に備えて姿勢を低くしたり、ハンカチや手で口を覆ったりするなど自らの命を守るために真剣に訓練を行っていました。集まってきた子どもたちに私は「毎年当たり前のように訓練をしているし、どう行動すればよいのか知っていてもパニックになったときは頭でわかっていることはすべて忘れてしまいます。真剣に訓練をしたことは身体が覚えることができます。だから1回1回の当たり前の訓練を今日のように真剣に行いましょう」と話しました。

かつて東日本大震災の直後、あるテレビ番組で3月11日の大地震の時の東京ディズニーランドのキャストの対応を取り上げていました。それは、液状化現象が起こり、噴水の水が地震の激しい揺れによってあふれ出ている中でもすべてのキャストが冷静にそして、マニュアルにしばられることなく「全てはお客様のために」という一点で誘導を行ったという内容でした。その裏には年間180回にも及ぶ最悪の事態を想定した真剣な訓練があったそうです。毎回毎回の防災訓練。大事と知っていても「面倒だな」と思ってしまいがちになります。気を抜いて訓練をしていると実際に重大な命の危険にあった時、人間は危険回避の行動がとれないのだそうです。数年前に読んだ本の中に書かれていましたが、アメリカで起きた9・11テロ。ある会社では、テロ以前から警備責任者が抜き打ちの避難訓練を頻繁に行い、だらだらと非常階段を下りる社員を叱り飛ばしていたそうです。しかし、そのおかげでテロにあった社員たちは「魔法をかけたよう」に迅速に避難し、ほとんどが助かったそうです。学校では、現実的に180回もの訓練をしていくことは難しいですが、引き渡し訓練・避難訓練等、1回1回を真剣にしていかなければならないと改めて思いました。そして、学校もマニュアルにとらわれず、安全を第一にいかに臨機応変に対応できるよう、日頃より心がけていきたいと思えます。

キャストたちには四つの行動基準を徹底した。「Safety (安全)」「Courtesy (礼儀正しさ)」「Show (ショー)」「Efficiency (効率)」。頭文字から「SCSE」と呼ばれるこの基準では最初のS、つまり「来園者の安全」が最も優先された。